



女性建築士の集いin室蘭2016
 ~室蘭の歴史的建造物を見学しよう!第2弾~

林 和恵 (北見支部)

10月2日(日)全道大会「室蘭大会」の翌日 JR室蘭駅に集合!

市民団体「蘭歴建見会」の代表でもある室蘭支部の吉田幸恵さんのご協力をいただき、室蘭工業大学助教 武田明純先生の解説で、総勢30人、まち歩きをSTARTしました。

当日は風も穏やかで、とても良いお天気に恵まれました。

古いまち並みが残る旧アーケード街の建物の解説を聞きながら、ゆるやかな坂を登って行くと見学先の一つである「蕙山苑」があります。明治42年栗林商会の創業者栗林五朔氏が本宅兼迎賓館として建設。新潟から宮大工を呼び寄せ、釘を一本も使用せず入念に仕上げがなされ、100年経った今日でも寸分の狂いもないそうです。

大広間の縁側の丸桁は27mに及ぶ杉の一枚板で、その下に収まった格子窓は手延べガラスが使われていて、少し歪んだガラス越しに見える庭の木々は湖水に写った景色のようでとてもステキでした。増築された部分には、ルネッサンス風の応接室があり、その横の広縁にはライオンの吐出し口の壁泉もありました。当時は壁泉の水の音を聞きながらお庭を眺めていたそうです。優雅ですね。

外に出ると良く手入れされた広大な庭園にコケが生し、ふかふかのジュータンの上をはだして歩いているような踏み心地で坂道を歩い

て疲れた足にとっても優しくかったです。

建物をよりよく保存するために約200坪の建物を女性が一人で十数年住み込みで維持管理されているそうです。一人でご苦労ありませんかと尋ねたところ、ここでこうして生活させてもらっているのがとても幸せです。とおっしゃっていたのが印象的でした。

ふだん一般公開されていないので、貴重な経験をさせていただきました。

坂道を下って行き、次は車に乗り合わせ、昨年閉校になった「旧絵鞆小学校」を見学。特徴である円形校舎は狭い敷地に少ない建築材料でより広い床面積を建築できる経済性の高いデザインで、戦後復興期に全国各地に建設されましたが現存は希少となり、現在東棟は教育機関として活用され、保存されることとなりましたが、3階に体育館のある特徴的な西棟も合わせて、2棟の保存活用を求める署名を呼びかけているそうです。2棟じゃないとメガネ型にならないので是非残してほしいですね。

また、ドラマのロケ地としても注目され、現在撮影中の室蘭を舞台にした映画「モルエランの霧の中」にも撮影が予定されているそうです。上映が楽しみです。



旧 絵鞆小学校 正面玄関前にて

「建築・インテリアのプロが描くスケッチパース」講習

富永 初穂 (札幌支部)

ささっとパースを描きながら、お客さまと打ち合わせ。そんな建築士に憧れていたはずなのに、描けなくても何とかこなってしまいがち、これまでやって参りました。

心の底にくすぶる、そんな憧れと現実の乖離に向き合うべく、9月3~4日「建築・インテリアのプロが描くスケッチパース」講習に参加させていただきました。

講師の飯田公久先生は、長年インテリアデザインの分野でご活躍されており、作品集はさすがの一言。憧れと不安でドキドキです。



先生の実演に真剣な眼差しを受講生たち

初日にまず教えていただいたのは、私たちは意外と対象物をちゃんと見ていないということ。先入観をなくして、穴があくほど見つめて描けば...!秘伝の彩色術も教えていただき、二時間で魔法のように上達した自身のスケッチを見て、教室中が喜びに沸きました。

2日目は主にパースの練習。二点透視と聞くと難しそうですが、基本は立方体の組み合わせ。立方体の書き方を覚えて、それを展開させていく...。ちょっと練習が必要ですが、パースには「書き方のルール」があることがわかり、この2日間でなんだか上達への道が見えた気がしました。

手を動かしながら、短時間で上達を実感でき、楽しくてあっという間の2日間でした。こんな素敵な機会を、本当にありがとうございます。また次回、初級者編?も期待しています!